

第3章 めざす2025年（平成37年）の都市空間

第1節 都市づくりの基本理念	20
第2節 都市空間づくりの考え方	20
第3節 めざす都市空間	22
第4節 めざす都市空間を支える都市構造	23



第1節 都市づくりの基本理念 「世界とふれあう市民創造都市」

上位計画である「新・神戸市基本構想」（目標年次 2025 年）では、神戸の都市づくりの基本理念を「世界とふれあう市民創造都市」とし、実現のための都市像として「ともに築く人間尊重のまち」「福祉の心が通う生活充実のまち」「魅力が息づく快適環境のまち」「国際性にあふれる文化交流のまち」「次代を支える経済躍動のまち」の5つを掲げています。

また、「神戸市基本計画」では、神戸が持つ資源や魅力としての、まち、暮らし、ものづくりやサービスなどの産業の3つを「デザイン」という視点でさらに磨きをかけることにより、新しい価値を生み出す創造都市（デザイン都市）を神戸の都市像としています。

都市計画マスタープランでは、これらの都市像の実現に向け、安全・安心・快適で活力と魅力ある持続可能な都市づくりをめざします。

第2節 都市空間づくりの考え方

これからの神戸の都市空間づくりは、現在の都市構造を活かしながら、きめ細やかに「都市空間」の質を高め、マネジメントしていくことで、都市空間を再編することをめざします。そのために、協働と参画により、質の高い多様な「わがまち空間」を1つ1つ作りあげていきます。

「都市空間」とは、市民が暮らし、働き、学び、楽しむなど、様々な活動の場となる空間のことであり、神戸全体の都市空間の骨組みとなる土地利用や交通ネットワーク、自然環境のことを「都市構造」といいます。

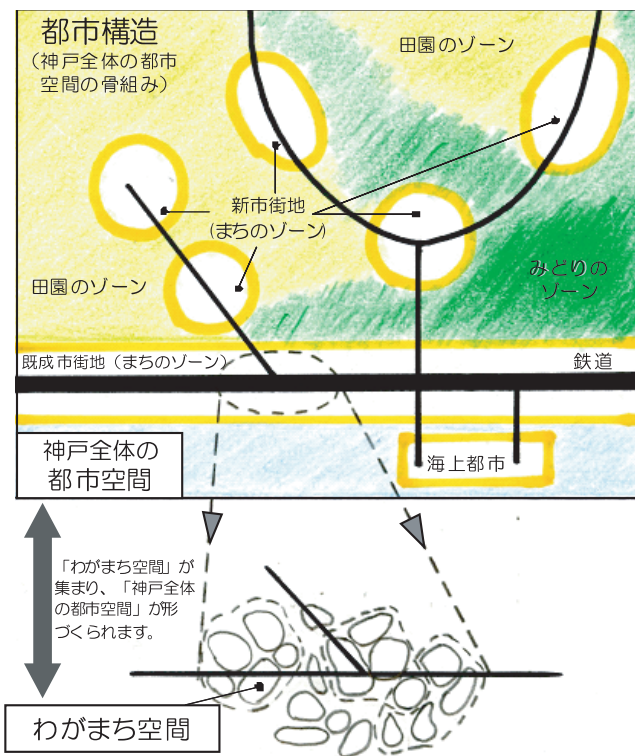
また、「わがまち空間」とは、地域みなさんが、日常生活において、わがまちと認識できる身近な範囲の都市空間（土地・建物、道路、公園、河川などによってつくられる地域の空間）のことです。この「わがまち空間」が集まることにより、神戸全体の都市空間が形づくられています。

これからの神戸の都市空間づくりは、新たに都市空間を構築するのではなく、現在の都市構造を活かしながら、都市空間を再編することをめざします。

「都市空間を再編する」とは、きめ細やかに都市空間の質を高め、マネジメントしていくことであり、そのために、協働と参画のまちづくりにより、多様な地域の特性を活かしながら、1つ1つの「わがまち空間」の質を高めていきます。

そして、質の高い多様な「わがまち空間」をつくりあげていくことにより、神戸全体の都市空間の質を高め、魅力を磨き、新たな活力を生み出していきます。

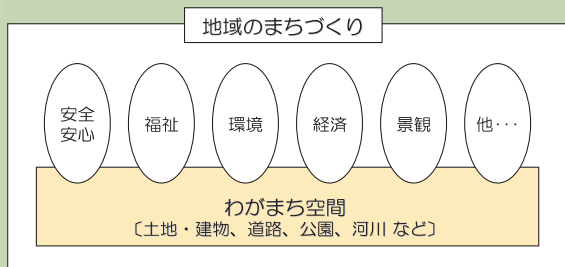
< 都市空間のイメージ図 >



〔「わがまち空間」の質を高めるには〕

地域のまちづくりには、安全・安心、福祉、環境、経済、景観など様々な分野があり、これらが互いに関連しあっています。

このような様々な分野の活動の場となるのが、「わがまち空間」です。



地域のみなさんとともに、きめ細やかな土地利用の誘導や住環境の整備改善、暮らしを支える交通環境の形成、緑豊かなまちなみの形成、多様な地域固有の資源をまもり、活かす取り組みなどを進めることにより、わがま

ちの魅力や活力、暮らしやすさを高めるような、質の高い「わがまち空間」をつくることができます。

また、分野によっては、となりあう「わがまち空間」が連携することで、より効果的に質を高めることができます。

〔「都市構造」と「わがまち空間」〕

質の高い「わがまち空間」をつくるためには、それぞれの地域の魅力・資源を活かす視点に加えて、「わがまち空間」が、神戸全体の都市空間の中でどのような位置づけのエリアにあるかをふまえて検討していく必要があります。

たとえば、都市の骨格となる主要な幹線道路や、都市として重要なエリアや拠点、緑、景観などの位置づけがあれば、これらをふまえて「わがまち空間」をつくるのが求められます。

第3節 めざす都市空間

- (1) 災害に強く安全で、誰もが暮らしやすい都市空間
- (2) 活力を創造する都市空間
- (3) 環境と共生する都市空間
- (4) デザインの視点で磨かれた魅力ある都市空間

(1) 災害に強く安全で、誰もが暮らしやすい都市空間

災害時に備えて防災施設の整備・充実をはかるとともに、被害を最小限に食い止める「減災」の視点も取り入れたハード・ソフト両面の施策の推進や、協働と参画による地域の防災力の向上をめざします。

また、多様な地域特性に応じたきめ細やかな土地利用の誘導や、暮らしを支える交通環境の形成により、誰もが安全・安心で快適に暮らせる都市空間をめざします。

(2) 活力を創造する都市空間

経済のグローバル化の進行をふまえ、神戸経済を支える基幹産業の機能強化や、新たな成長分野である知識創造型産業の集積を促進します。

また、多様な都市活動を支える陸・海・空の総合的な交通ネットワークの形成を進めることにより、人・物・情報の交流・融合を原動力として経済が活性化する都市空間をめざします。

(3) 環境と共生する都市空間

都市機能が高度に集積した市街地やゆとりのある市街地の戦略的な形成や、公共交通機関の利用促進をはかることにより、都市機能がコンパクトにまとまった都市構造をめざします。

また、六甲山系などの緑地環境や河川などの水環境の保全・育成及び質的向上をめざします。

あわせて、エネルギーを効率的に利用することにより、環境負荷の少ない持続可能な低炭素都市を実現し、環境と共生する都市空間をめざします。

(4) デザインの視点で磨かれた魅力ある都市空間

神戸の持つ美しい自然環境や多様で特色のある魅力的なまちなみをまもり、そだて、つくり出します。

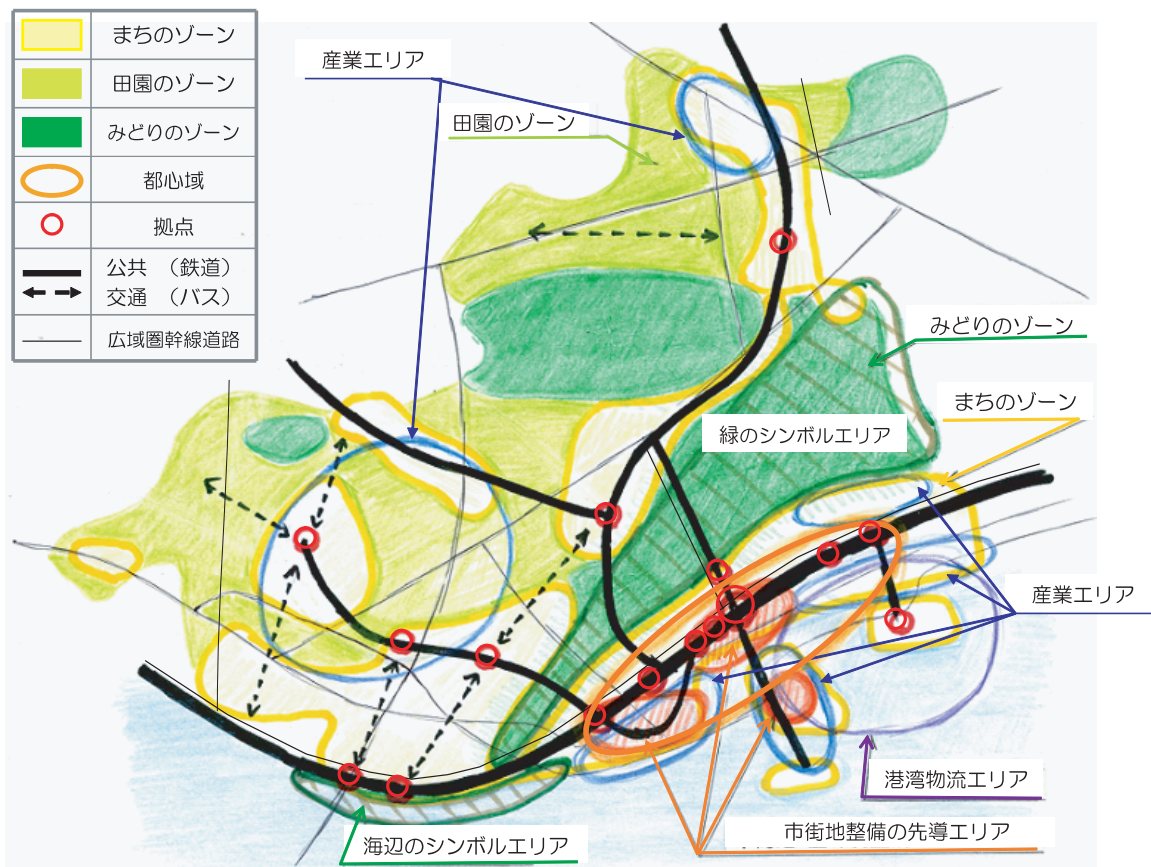
また、神戸の魅力を世界に発信するエリアの機能強化をはかるとともに、にぎわいと楽しさにあふれ、市民や訪れる人にとって、やすらぎや心地よさ、利便性や快適性を感じられるような、デザインの視点で磨かれた魅力ある都市空間をめざします。

第4節 めざす都市空間を支える都市構造

神戸の持つ地理的条件やこれまでの都市づくりの歴史、社会経済情勢の変化をふまえて、神戸全体の都市空間の骨組みとなる「都市構造」として、「ゾーン」をはじめ、「エリア」や「拠点」を適切に配置するとともに、これらを結びつけ多様な都市活動を支える「陸・海・空の総合的な交通ネットワーク」の形成をはかります。

〔都市構造の考え方〕

- 都市機能がコンパクトにまとまった都市構造
- 神戸の重要な産業を支える都市構造
- 神戸の魅力を創造するエリアや拠点を戦略的に配置した都市構造
- 海や山などの豊かな自然環境と共生した都市構造
- 陸・海・空の総合的な交通ネットワークが効率よく機能する都市構造



(1) 3つの基本ゾーン

都市機能がコンパクトにまとまった都市構造をめざして、神戸全体の都市空間を「まち」「田園」「みどり」の3つの基本ゾーンに大別し、この3つのゾーンの区域を原則として維持しながら、自然環境と都市機能が調和した都市空間づくりを推進します。

① まちのゾーン

神戸港を中心として発展し、鉄道などの公共交通を軸に郊外にも計画的に展開してきた既存の市街地を「まちのゾーン」とします。

鉄道駅周辺などの利便性の高い市街地に多様な都市機能の集積を促進するとともに、生活基盤の整ったニュータウンなどは住み替えの円滑化などによる活力の維持をはかります。一方、山麓部などでは緑豊かでゆとりのある低層住宅を中心とした市街地を形成します。

このようにメリハリをつけて、都市機能が高度に集積する市街地やゆとりのある市街地などを、戦略的に形成します。

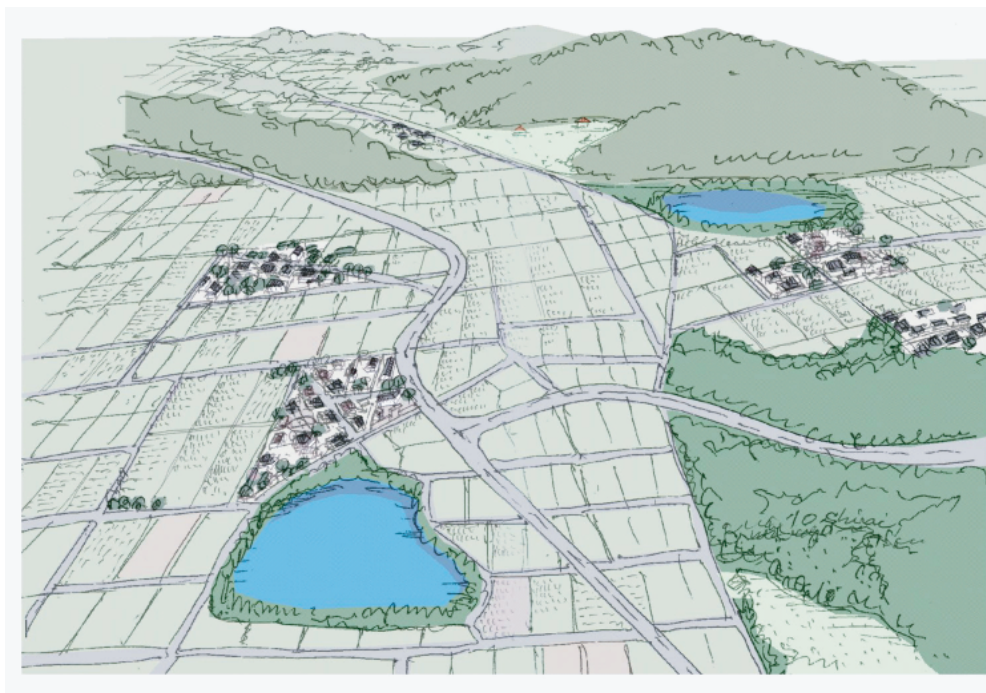
また、地域特性に応じて住宅地、複合機能地、高度商業・業務地、工業・流通業務地に区分し、きめ細やかに土地利用を誘導することにより、都市機能の維持・強化をめざします。



② 田園のゾーン

農地・集落・里山などが広がる農村地域を「田園のゾーン」とし、良好な営農環境・生活環境・自然環境を維持・活用するとともに、人口減少・

超高齢化に伴う農業の担い手不足にも対応しながら、人と自然とが共生した秩序ある土地利用をめざします。



③ みどりのゾーン

神戸の骨格を形成する六甲山系や帝釈・丹生山系、雄岡山・雌岡山周辺などの緑地を「みど

りのゾーン」とし、環境、防災、景観などに配慮し、豊かな自然環境を保全・育成します。



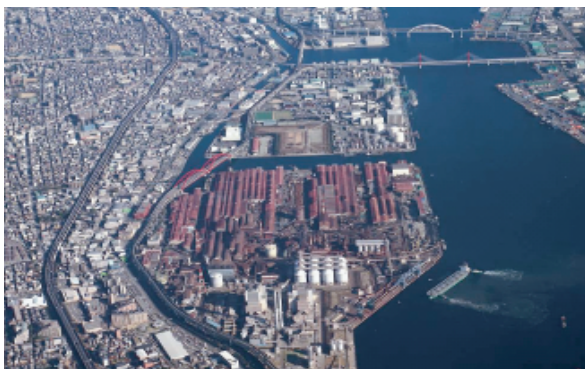
(2) 都市に活力をもたらす産業・港湾物流エリア

神戸の重要な産業を支える都市構造をめざして、臨海部の工業地や内陸部の新産業団地、ポートアイランドなど知識創造型産業の集積エリア、神戸港の港湾物流エリアにおいて、重点的に機能強化や企業立地を促進します。

① 臨海産業エリア

既成市街地の東西の臨海部を「臨海産業エリア」とし、神戸経済を支える基幹産業の集積及び神戸港の港湾機能を活かし、海外からの需要が見込まれる成長分野の産業活動をより一層促進します。

<灘臨海部>



<兵庫臨海部>



② 内陸新産業エリア

内陸部の新産業団地周辺を「内陸新産業エリア」とし、物流機能を支える充実した広域交通ネットワークをはじめ、大学や教育機関の集積や職住近接など優れた環境を活かし、さらなる企業集積をはかり、産業・経済活動を促進します。

<西神インダストリアルパーク>



<神戸複合産業団地>



③ 知識創造エリア

既成市街地の東山麓部、ポートアイランド、西神地域の新産業団地周辺を「知識創造エリア」とし、医療・健康・環境など新たな成長分野である知識創造型産業の関連企業や大学・研究機関が国内外から集積し、連携・融合することで、人材の育成や国際的にも優れた製品・サービスの創出を促進します。

<大学施設>



<次世代スーパーコンピュータ施設>



④ 港湾物流エリア

国際コンテナ戦略港湾である神戸港を「港湾物流エリア」とし、国際物流や都市活動の持続的な発展を支える西日本のゲートポートをめざして、物流機能を拡充・強化します。

<ポートアイランド>



<六甲アイランド>



(3) 多様な都市活動の交流・融合をはかるエリア・拠点

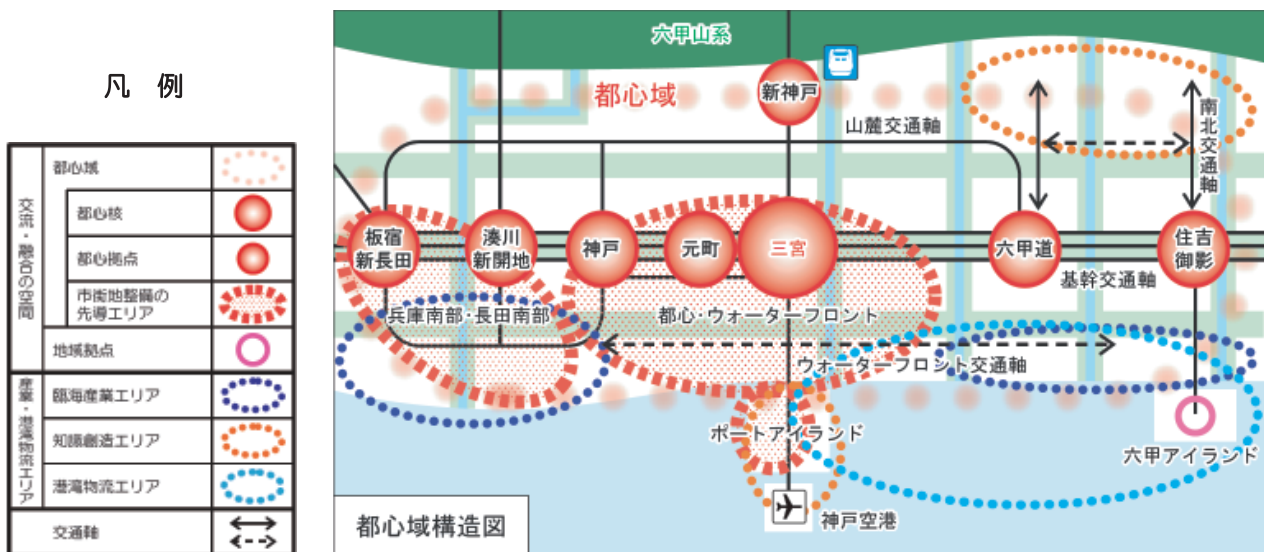
神戸の魅力を創造するエリアや拠点を戦略的に配置した都市構造をめざして、神戸の魅力を世界に発信するエリアや、地域での都市活動や文化活動を支える拠点の形成を進めます。

① 都心域

六甲山系南側の既成市街地において、多様な人々が暮らし、働き、学び、楽しむ神戸の魅力を発信するエリアを「都心域」とします。住機能をはじめ商業・業務機能、産業機能、文化・教育・観光機能など、様々な都市機能を強化するとともに、都市機能の連携による相乗効果を促し、都心域全体の魅力を高めます。

これまでに育まれたコミュニティを大切に、暮らしやすい住環境の形成をはかりながら、複合的な土地利用を適切に誘導します。

また、基幹交通軸、山麓交通軸、ウォーターフロント交通軸などからなる公共交通ネットワークを形成することにより、交通利便性や回遊性・結節性を高めます。



ア. 都心核

都心域の中で、特に多くの公共交通機関が集積する三宮駅周辺を「都心核」とし、公共交通機関の乗換えの円滑化や、周辺の魅力ある地域との回遊性の向上とともに、業務・商業機能、文化・交流機能の集積をはかります。

また、良好な景観の形成や、交流・融合の場となるオープンスペースの創出などにより、神戸の玄関口にふさわしい風格のある都市空間を形成します。

<三宮駅周辺>



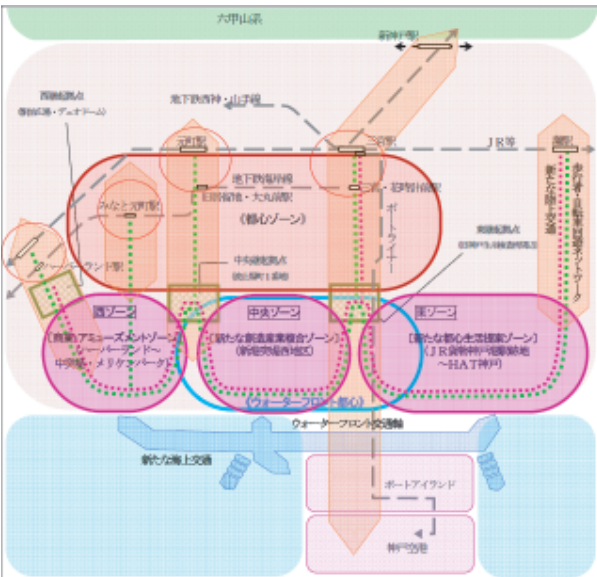
イ. 都心拠点

住吉、御影、六甲道、新神戸、元町、神戸、湊川、新開地、板宿、新長田周辺を「都心拠点」とし、主要駅周辺の高い交通利便性や多様な地域特性を活かして、商業・業務機能、文化・交流機能、住機能などの集積をはかります。

＜六甲道駅南＞



＜都心・ウォーターフロントのゾーニング＞



- ・西ゾーン（商業・アミューズメントゾーン）：
ハーバーランド～中突堤・メリケンパーク
- ・中央ゾーン（新たな創造産業複合ゾーン）：
新港突堤西地区
- ・東ゾーン（新たな都心生活提案ゾーン）：
JR貨物神戸港駅跡地～HAT神戸
〔「港都 神戸」グランドデザイン原案より〕

② 市街地整備の先導エリア

ア. 世界に誇れる「港都 神戸」を創生する 先導エリア：都心・ウォーターフロント

ハーバーランドからHAT神戸にいたる「都心・ウォーターフロント」において、港のすぐ間近に六甲山系を有する神戸固有の恵まれた自然条件を活かし、「デザイン都市」の具現化をはかります。港の歴史を継承しつつ、ウォーターフロントに様々な都心機能を導入し、都心の商業・業務機能との相乗効果による活性化をめざすとともに、都心・ウォーターフロントの回遊性の向上などにより、市民が世界に誇れる「港都 神戸」を創生する先導エリアとして整備を推進します。

＜新港突堤西地区の将来イメージパース＞



＜波止場町1番地の将来イメージパース＞



〔「港都 神戸」グランドデザイン原案より〕

イ. 知の集積・交流により新たな価値を創造する先導エリア：ポートアイランド

神戸医療産業都市構想や次世代スーパーコンピュータの利活用などをさらに推進し、ライフサイエンス分野、計算科学関連などの企業・研究機関・大学の知的人財が国内外から集積・交流する知識創造の場を形成します。

また、海・緑・水を活かした潤いと憩いのある魅力的なまちなみや、質の高い都市空間を形成することにより、新たな価値を創造する先導エリアとします。

<神戸医療産業都市構想 施設群>



ウ. 産業・歴史・文化を活かして再生する先導エリア：兵庫南部・長田南部

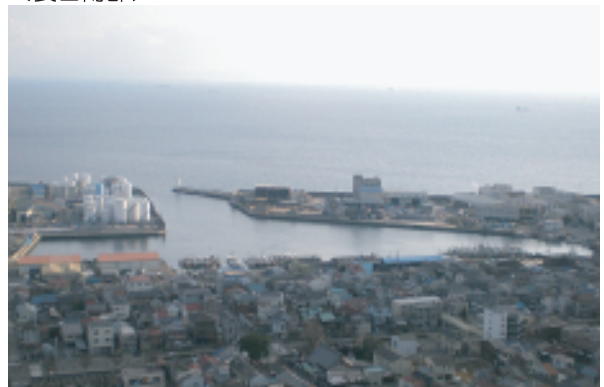
世界最先端の技術を持つものづくり産業の集積を活かし、低炭素社会の構築に資する産業などの機能強化をはかります。また、兵庫運河周辺などに多く残されている歴史的資源や、多文化が共生する生活文化などを活かして、まちの活性化をはかります。

そして、市民や観光客の回遊性の向上、歴史を活かした景観づくり、中央卸売市場跡地などの活用による新たな活力・魅力の創出、新長田周辺の市街地整備などを推進することにより、住み、働き、訪れる人にとって魅力的なまちに再生する先導エリアとします。

<兵庫南部（兵庫運河周辺）>



<長田南部>



③ 地域での都市活動や文化活動を支える拠点

ア. 地域拠点

六甲アイランド、鈴蘭台、名谷、学園都市、垂水、舞子を、地域での都市活動や文化活動を支える「地域拠点」とし、公共交通機関の結節機能の強化や商業・業務・文化機能などの集積をはかります。また、六甲アイランドでは、国際性を活かした拠点づくりを進めます。

<六甲アイランド>



イ. 連携拠点

西神中央、岡場を「連携拠点」とし、地域拠点の機能に加え、隣接市との連携に必要なターミナル機能などの強化を進めます。

<西神中央>



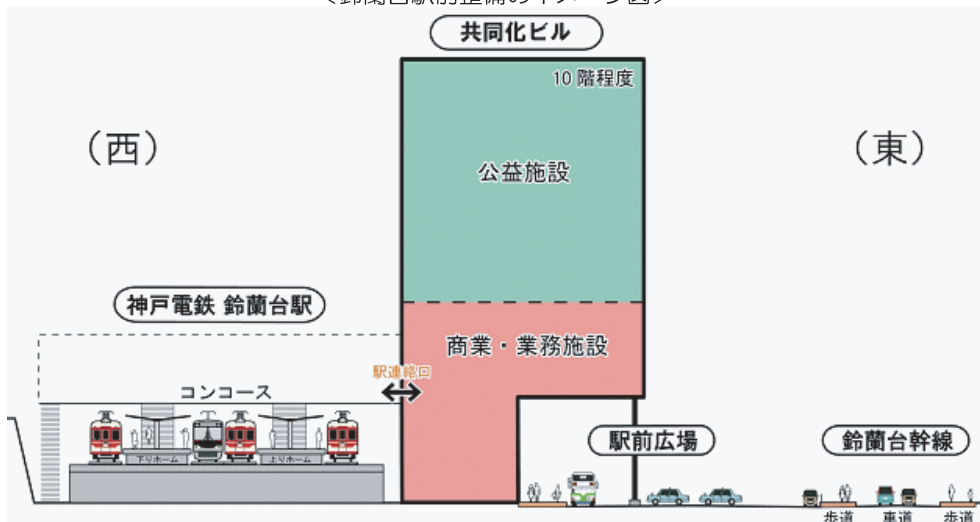
<垂水駅前>



<岡場>



<鈴蘭台駅前整備のイメージ図>



(4) 自然環境を保全し、憩いの空間として活用するエリア・拠点

海や山などの豊かな自然環境と共生した都市構造をめざして、神戸の都市空間を特徴づけている緑や海辺などの自然環境を保全・活用するとともに、観光・スポーツ・レクリエーション・保養・福祉などの憩いの空間として活用します。

① 緑のシンボルエリア

神戸の都市空間を特徴づけている六甲山系を「緑のシンボルエリア」とし、豊かな自然環境や眺望景観を保全・育成するとともに、緑のもつ多様な機能などを活用した魅力的な空間づくりを推進します。

<六甲山系>



<六甲山牧場>



② 海辺のシンボルエリア

須磨から垂水、舞子にいたる海岸周辺を「海辺のシンボルエリア」とし、海洋レクリエーション拠点としての利用を促進します。

<須磨海岸>



<アジュール舞子>



③ 憩いの拠点

福祉の場となるしあわせの村や、保養の場となる有馬温泉、スポーツ・レクリエーションの場となる主な公園・施設などを、「憩いの拠点」として活用します。

<有馬温泉>



<しあわせの村>



④ 環境形成帯

シンボルとなる既成市街地の河川や街路の沿線一帯を「環境形成帯」とし、河川や街路が本来もつ機能に加え、周辺の市街地とのつながりをふまえて、建物の緑化による緑豊かなまちなみの形成などにより、環境共生や防災、景観形成などの多様な機能をあわせもつ空間を創出していきます。

環境形成帯は、特に夏季において、海や山からの涼しい風が市街地を流れる「風の道」としても機能します。

<都賀川>



<山手幹線>



(5) 陸・海・空の総合的な交通ネットワーク

広域的な人・物・情報の交流、連携や産業活動を支えるため、今後、広域的な道路や港、空港などの機能強化をはかるとともに、これらと有機的に連携した都市内の交通ネットワークの形成を進めます。

① 公共交通ネットワーク

神戸市内や市外との交流、連携を促進するため、主に既成市街地を東西に結ぶ鉄道網と、既成市街地と郊外の市街地を結ぶ鉄道網を基幹として、これを補完するバス路線網などにより、総合的な広域・主要公共交通ネットワークの維持・形成を推進します。

② 道路ネットワーク

産業エリアなどでの産業活動を支え、国内外との交流や物流を促進するために、神戸港や神戸空港などの機能を強化するとともに、格子状の道路ネットワークを形成し、都市の広域的な拠点機能を高める「広域圏幹線道路」ネットワークの形成を促進します。

また、既成市街地内及び市街地間を連絡し、市域の一体性を高める機能を担う「都市内幹線道路」ネットワークの形成を進めます。

<交通ネットワーク図>



都市構造図

凡例				
ゾーン	まちのゾーン			
	住宅地	■		
	複合機能地	■		
	高度商業・業務地	■		
	工業・流通業務地	■		
田園のゾーン	■			
みどりのゾーン	■			
エリア・拠点	産業・港湾物流エリア	臨海産業エリア	○	
		内陸新産業エリア	○	
		知識創造エリア	○	
		港湾物流エリア	○	
	交流・融合の空間	都心域	○	
		都心核	●	
		都心拠点	●	
		市街地整備の 先導エリア	○	
	自然環境・憩いの空間	連携拠点	○	
		地域拠点	○	
		シンボルエリア (緑・海辺)	○	
		憩いの拠点	●	
		河川	—	
	交通ネットワーク	公共交通	広域公共交通(鉄道)	—
			主要公共交通(バス)	—
フェリー・客船など		■		
空港		✈		
新幹線		■		
広域圏幹線道路		供用中	—	
		事業中	-----	
		計画	□□□□	
		構想	□□□□	

